

個人情報保護法の施行

個人情報への意識を高めて

医療法人近森会管理部長 川添 昇



今年4月より「個人情報保護法」が施行された。これはインターネットや電子メール、携帯電話など、高度情報通信社会の進展に伴い、個人の基本的な権利を保護するために施行されたもので、罰則規定を伴っている。

施行後およそ2カ月が経過したが、当院では、医師をはじめ看護師や、国家資格医療技術者は、各々の法律で守秘義務は定められており、これまでのところ大きな問題も起こっていない。

昨年12月に厚生労働省よりガイドラインが出されて以来、早急に田村裕彦総務課長を中心としてガイドラインに関する情報収集と解説に努めた。各部署に対しても、取り扱い情報と情報保護について問題と思われる点を洗い出し、その報告をもとに、北村龍彦副院長の指導を受けながらガイドライン

に基づいて検討を重ねた。

「情報のいち早い収集と検討、そして立ち上げこそが勉強になる」との理事長の言葉で、医療業界としてはかなり早い時期に、スタッフ全員による対応を速やかに実行することが出来た。

この法律によって、たとえば医療記録や診療情報などの患者情報を守秘するだけではなく、さまざまな情報を取り扱うにあたっては、患者さんの同意が不可欠となってきたわけである。これまで、医療機関や医療従事者は、患

者さんへの「説明と同意」という対応が求められてきたが、これからは、法的に強制力を持つこととなった。

これからは、「おまかせの医療」や、医師や医療従事者の「パターンリズム（父と子の間のような保護、支配の関係。父親的温情主義）」は、全く許されないこととなる。

今後、同保護法にしっかり取り組むことは、医療機関に勤める者として最低限のことといえる。そうしてこそ信頼できる病院として、患者さんに選ばれる質の高い病院となりえると思う。

これまで近森会内で4回の研修会を開いているが、今後も継続的な開催を予定している。何よりも職員ひとり一人の個人情報保護に対する意識を高めていただくことが肝要だと思っている。

かわぞえ のぼる

● 6月の歳時記 ●

新館4階東病棟 吉門 由香

アジサイ



ユキノシタ科の落葉低木で、一般に観賞用として栽培されています。梅雨の頃、小さな花がマリのよう集まって咲き、花の色は青紫色から次第に濃くなり淡紅色に変わります。梅雨の時期は気持ちまで沈んでしまいがちですが、嫌われ者の雨があじさいを演出しているようにも思われます。皆さんも梅雨に咲くこの花を見かけたら、少し足を止めてみてはいかがでしょうか。

イタリアの医療システムや医薬品の流通を学ぶ海外研修に参加して、9日間イタリア各地の町を訪ねた。

ローマでの第一日目は1672年開業という古い薬局を見学した。名前も「アンティーカ・ファルマチーア・レアーレ」といって、サヴォイア王室御用達の昔からの薬局、という意味だ。イタリアの処方箋はA、B、Cに分かれていて、全額保険がおけるAの赤色処方箋は、1枚で最高2種類の薬しか処方できず、しかも箱出しである。Bは一部負担、Cは全額自己負担となっている。

病院はほとんどが公立で、医療費は税金で賄われている。大学卒業後3年の研修でベーシック・ドクターとなり、聴診器一本で住民の医療の必要度に応じて、病院や検査センターに患者さんを振り分けている。日本を振り返ってみると、なんときめ細かで丁寧な医療を行っていることかと思う。

イタリア研修旅行

近森 正幸



日本人が享受している医療レベルの高さを、医師を始め日本人自身が意外に知らないのではないかと。日本の皆保険制度はすばらしく、外国に比べずいぶん恵まれていると感じた。

4日目からはシチリア島のカタニアやシラクサ、パレルモなどを訪れ、最後にトスカナ地方のフィレンツェ

に寄った。南は北イタリアとは対照的で、厳しい風土と歴史のせいか、道は汚いし、料理もワインも口に合わなかった。

日本に帰ってくると、ふだん見慣れている家並みや道路もきれいで整備されているように見えた。

食生活にしても、日本ほど繊細で、健康にもすぐれた美味しい料理はないと思う。むかし、両親が海外から帰ってくる度に「高知が一番」とよく言っていたが、私も、そんな思いを持つような歳になった。

(理事長・ちかもり まさゆき)

感染管理の外部評価 — APIC メンバーを迎えて—

近森病院副院長 北村 龍彦

病院を始めすべての医療機関において感染管理の重要性は認識しているところであり、法で定められているように、各医療機関が感染管理に関するマニュアルを作成し、職員に教育浸透させ実践し、各種統計分析から感染管理の見直しを常に図っていくことが重要です。また感染対策委員会のメンバーによる職場巡視も行い、定められた感染対策が適切に行われているかを評価し改善活動に繋げているところです。

そのような中で、近森病院でもようやく4月から感染管理専任看護師が1名任命されましたが、多くの医療機関では感染管理の重要性は認識していてもマンパワーの不足などから、なかなか職場巡視で目が届かないところもあ



るのも事実です。

近森会では感染管理のために種々の取り組みを行ってききましたが、今回われわれの行っている感染管理がはたして適切かどうかの検証をAPIC(米国感染症専門家協会)のメンバー2人をサーベイヤー(評価調査者)としてお招きし、3月18日に評価をしていただきました。

外部評価といえば日本では日本医療機能評価機構(JCQHC)、米国では



JCAHOによる病院全体の第三者評価が有名ですが、今回のサーベイは日

米の感染管理に関する評価項目を抜き出して、さらに追加された評価項目に関し自己評価を行い、それを事前に米国に送り、その後実際に近森病院の重要な部署を訪問し、適切に感染管理が行われているかをチェックし、評価分析後、改善勧告(強制力はないので改善案)の提言を受けるというシナリオです。

前述の日米二つの外部評価は認定制度であり、今回の大きな特徴は改善のためのサーベイランスであるという点です。そのために実際行っている感染管理をすべて包み隠すことなくさらけ出し、不備な点をとことん指摘していただき、ディスカッションの後分析・公表からリコメンデーションをいただき、改善につなげるという手法です。

サーベイ終了後とてもたくさんの指摘をいただき、まだまだわれわれの取り組みの不十分なところが洗い出されました。米国に帰られてからサマリーを作成され、送付される予定ですが、現在すでに重要度・緊急度別に改善案を作成し、できる部分から改善に取り組んでいるところです。

きたむら たつひこ

院外エッセイ

合歡の花咲く頃

小林 和香

1957年安芸市生まれ。1982年結婚とともに、松戸、秋田、大阪と各地を転々とし、1991年暮れから安芸市在住。現在、安芸市立歴史民俗資料館で委託学芸員として勤務しながら、地域の女性たちのネットワークづくりに参加。安芸広域パワーアップ女性塾OG会会員。



合歡の花が咲くと、長男が生まれた頃を思い出す。東京近郊のネギ畑に囲まれた小さなアパート、おしゃれな都会暮らしからはほど遠かったが、故郷から遠く離れ、近くに親戚も友人もない暮らしは、子どもが生まれるまでは気楽なものだった。

いざ長男が生まれると気楽な暮らしは一変した。手伝いに来てくれた母が帰った途端、途方に暮れる毎日。朝、八時前に家を出る夫が帰ってくるのは、夜八時過ぎ。その間、一人っきりで初めての子育て。母乳で育てようと頑張っているのに、なかなか上手く飲んでくれず、授乳間隔は二時間がやっと。一日中、授乳に明け暮れる毎日、その合間に洗濯やら、ご飯の支度やら。母乳が足りないんだろうか、なんでこんなにすぐ泣くのだろう。不安になればなるほど泣く長男。子どもと一緒に泣きながら、夫の帰りを待つ毎日。こんなはずじゃなかったのに、どうしよう。泣く子を抱いたまま、ア

パートの外の合歡の木の下を行ったり来たり。夕闇の中にぼうっと、合歡の花が浮かんでいた。

頼りない私にくらべ、五人兄弟の末っ子の夫は、高校生の頃から姪と一緒に暮らしていたこともあって、子どもの扱いには慣れていて。お風呂にいれるのも、オムツ替えも、夫の方が上手。夫が帰ってくると、それだけでホッとして、子どもから解放されたように思えた。もし、夫の帰りがもっと遅かったり、子どもに無関心な夫だったら、どうなっていたら。虐待や親子心中のニュースを聞く度に恐ろしくなる。その後、二人目、三人目と育てるうちに、泣いている子どもの側でも、ぐうぐう寝られるくらい図太くなり、子育ての楽しさも十分味わうことができた。今では、長男も長女も成人し、子育てからはほとんど卒業してしまったが、合歡の花の咲く頃になると、子育てを始めた頃あの不安な日々を思い出す。こばやし わか

ちょっとしたエッセイ

随時掲載

土讃線の過ごし方

地元紙のコラムにJR土讃線の楽しみについて書かれていた。書き手は高知赴任の関西方面の方で、往復にJRをよく使われているとのことであった。車窓の瀬戸内海を愛で、四国の山や野の緑で目を休めながら、英訳文や重たい内容の本を読まれていて、車中の時間を有効に使っているとのことだった。

反面私とはいうと、出張帰りに岡山駅で江戸前の小鱈のような「ままかり寿司」とウイスキーの水割カン1本、そして週刊誌を購入、といえ、車中どんな時間をすごしているか、もうお分かりいただけると思う。

瀬戸内海にさしかかる頃にははや睡魔に襲われ、四国山脈を越え、列車の音が下り坂特有の音になる角茂谷駅あたりでようやく目を醒し、あっという間に土佐山田、後免を過ぎ高知につくという、そんな時間をすごしている。

極楽、極楽……

川添 昇

看護の現場をサポートできる フリーの師長たち誕生

医療法人近森会看護部長 梶原 和歌

現場のナースが生き生きしてこそ良い仕事ができ、人にやさしくなれます。生き生きできるためにはまず自分に目的・目標があること、病院の方針や看護の方向性がしっかりしていて自分の目標と矛盾がないこと、業務をする時システムが整っていてサポート体制もあること、そして心のつながりがあることです。

近森会の看護師は現在 492 名、介護看護補助者を加えると 600 名を越えた大軍団となっています。これは理事長の「医療は人、質の確保はまずマンパワーで」という理解ある方針の結果です。多くのコメディカルが病棟にはりついている体制も全国のモデルだし、昨年組織化された診療支援部もどんどん現場をサポートしてくれています。後は看護職自らが効果的な体制をつくることです。

この4月から新しい組織づくりが可能となりました。まずラインの師長に主任が昇格して若返りました。ベテランの看護師長が管理ラインからはずれて、フリーで現場に走り、現場で相談にのり、共に考えお互いに育っていく体制をとったことです。それは「医療安全・クオリティマネージャー」「教育・業務担当」「感染予防」の3本柱

です。

兼任でなく専任にするメリットはこれまで地域連携室に専任をおいたことで示されてきました。本院外来に統括看護師長を、救急 ER 部門も現場対応プラス BLS・ICLS 教育専任を決めました。ここは今、外来機能分化の途中で

まだ外科業務の整理に追われていますがきっと近森の底力を発揮できる実行部隊になると考えています。

リハビリテーション病院は「教育・システム・医療安全担当」と欲張った役割ですが現場の管理から一步引いて二歩も三歩も現場に近づき分析し現場をサポートする活動をはじめました。急性期も回復期も精神科も患者層の重症化、多様化、看護必要度の高さなどからとても忙しくなっています。その忙しさをやりがいに変えるために登場しました。活用してください。

かじはら わか

第 55 回救急症例検討会のご報告

目の所見は神経疾患の 大きなヒント



神経内科部長 山崎 正博

救急専門医の
根岸正敏先生



今回の救急症例検討会では、眼位(目の位置)異常が診断の大きなヒントになった2症例を提示して、意識障

害患者の鑑別診断を進めてゆく上で目が重要な所見になることを他の診察所見と併せて解説した。

当院の救急外来(ER)に運ばれてくる意識障害の患者は多い。その原因として、脳へ行く酸素や血液が不足する呼吸循環器系疾患、酸素やブドウ糖など脳活動に必要なものが足らなかったり不要なものが増える代謝性疾患、意識を保つ神経構造が壊れたり一過性の

機能低下をきたす神経疾患、に大きく分けられる。

血圧や脈拍・呼吸数は呼吸循環系のヒントになり、眼球彷徨(roving eye movement)があれば代謝性意識障害が疑われ、共同偏視があれば脳血管障害あるいはてんかんが疑われる。今回の1例目は脳梗塞、2例目はてんかんによる共同偏視であった。

今回の2症例のように、意識障害患者では、麻痺やけいれんの有無と共同偏視の方向が診断の手がかりになることが多いので、現着時所見の正確な記載を、参加されていた救急隊員にお願いした。

やまさき まさひろ

救急救命士による気管挿管実施資格取得のための第1期生実習が4月いっぱいまで終了しました。これは、救急現場での救命率向上のために救急救命士が法的に行えるようになった医療行為「気管挿管」について、近森病院が県や県下各消防署の要請に応じてその実習施設として協力しているもので、麻酔科が実習を指導しております。

第1期の実習生は、室戸消防署の青木さんと安芸消防署の仙頭さんの2名の救急救命士で、今年1月初めから実習を開始して、30例の実技を成功させ、このほどめでたく修了証を近森理事長より手渡されました。

この実習は手術患者の皆様のご協力なくしては成り立たないものですが、ご自身が辛い状況にあるにもかかわらず我々の趣旨にご賛同いただき、実に7割近い方々が協力依頼にご

気管挿管実習 を終えて

麻酔科部長 楠目 祥雄



向かって左から近森院長、青木救急救命士、仙頭救急救命士、楠目 Dr

承諾くださいましたことは、大変有り難いことでした。また、2名の救命士自身もよく頑張りました。当初の予想をはるかに超える4カ月の間、しっかり気管挿管手技を身につけてくれました。1名は家族と離れて高知市住まい、1名は毎日片道1時間の通勤、という

ご苦労でした。それだけに、この「第1期生卒業」は本人並びに関係者全員の大変うれしい出来事となりました。

この実習には思わぬ「副産物」がありました。「気管挿管実習」は1日のうちの少しの時間しか出来ず、多くの時間が余ってしまいますが、その空いた時間を ER(救急室)で実習して過ごしてもらいました。ERは彼ら救急救命士には関わり深い場所であり、普段は救急車の搬入先の部署なのですが、今回はそこで反対側の立場で見られたことが彼らには大きな経験となったようです。さらに当院の ER のスタッフとも深い信頼関係が出来たことで、今後のお互いの円滑な業務遂行が期待されます。ERの皆さんに感謝します。

以上、大変意義深い実習となりました。第2期、第3期と続けていく予定です。

くすめ よしお

色の影響

～その1～

産業保健師 野口 由美

5最後に……

1. はじめに

みなさん、こんにちは。過ごしやすい季節がやってきましたね。春になると洋服も、明るいパステルカラーが多くなりますね。私事ですが最近、色の勉強も始めたこともあり、今回は色についてお話したいと思います。

みなさんの好きな色は何色ですか？人は色で元気になったり、気分がよくなったりします。また私たちの生活の中にも、色は多く使われています。たとえば、トイレの表示をみて男女の区別をしたり、信号の色をみて、止まったり、進んだり。そして、色は時には人の持つ治癒力を高め健康になる手助けをしてくれます。それをカラーセラピー（色彩療法）と言います。カラーセラピーは色の刺激を使い、ココロとカラダを正常に戻す手助けをするものと言われています。

2. 色とは

色とは何でしょう？無色に見える太陽の光は様々な色の光からなってプリズムに通すと異なる屈折率によって7つの光に分散し、光の帯が生じます。私たちは、太陽の光が物体に反射したり、透過したものを「色」として目で認識しているそうです。

3. 色を見るときは

私たちは色を目で感じています。その色の信号を受けているのが、目の網膜を形成している錐体細胞。この錐体細胞は赤・青・緑を感じる3種類があります。色を認識する細胞は、この赤・青・緑の3色だけです。この3色を組み合わせることで様々な色を脳の中で再現し、色を認識しているそうです。そして、その目で認識できる色は、一千万色と言われています。

4. 色の性格

色の好みによってその人に性格がなんとなく分かるともいわれています。色による性格判断の歴史は、比較的新

しく1950年スイスの心理学者フィスターが発表した一つの研究が始まりと考えられています。その研究が「カラーピラミッド性格判断」。空白のピラミッドの中にどの色を埋めていくかによ

って性格を診断する方法だそうです。しかし必ずしもその人の性格が好みの色だけで分かるとは限らないのでご注意を。むしろ身に着けている色で、他人からその色の持つ性格に見られることはあります。その色の性格について少し紹介したいと思います。

色	色の性格と心理的效果など
白	純粹、清々しい、潔白な人
赤	活力的な人、情熱
茶	保守的、コツコツ几帳面、用心深い人
ピンク	愛らしさ、やさしい人
黄	快活、愉快、明朗な人
緑	安らぎ、くつろぎ、謙虚な人
青	冷静・沈着な人、落ち着き

私たちは日々、色々なストレスにさらされています。なにげなく選んでいる色も意識して選ぶ色も、私たちにとって必要な色エネルギーなのかもしれません。また、色は私たちのココロを映しているのかもしれない。

ココロとカラダは一体です。ココロが元気だとカラダも元気。色を選ぶ行為には、自分では気づかないうちに治癒力や元の状態に戻ろうとする働きがあるのかもしれない。色が及ぼす医学的效果はまだまだ研究段階です。しかし少なからず、色がココロやカラダに影響を与えていると思います。

さて今日は何色を選びましょう？

のぐち ゆみ

ハッスル研修医・第1回

4月からスタートの研修医10名のリレーエッセイです。どんな話が飛び出すか楽しみです。

近森病院との出会い

研修医 礒山 友子
(九州大学卒)



何を書こうか悩んでいました。そんな頃、高知県出身でも、高知大学でもないのに、なぜ近森病院で研修することになったのか、とよく聞かれました。そこでその経緯を簡単に紹介させていただきます。

あれは今年の4月18日に福岡で開かれた全国の研修病院を紹介する合同セミナー（合同就職説明会みたいなものです。）でのことでした。ちなみに、昨年度から研修制度が大きく変わり、それまでは多くの医学生は大学を卒業したらすぐ専門を決めて大学の医局に入っていました。2年間は専門を決めずに内科、外科など広く学ぶことになり、研修病院も就職活動のようなものをして決めるようになりました。

私はその頃、多くの友人のように福岡県内の研修病院での研修を考えていました。ところが何気なく立ち寄った近森病院のブースで運命的な

出会いをしてしまったのです。そこには北村副院長と浜重副院長がいらっしゃいました。先生方の人柄と一度見学においてというお言葉に誘われて、その時一緒にいた久保山さん（次回のひろっばに登場します）と今年のGWに近森病院に見学に来て、私たちは近森病院が好きになってしまいました。なぜなら近森病院で働いているスタッフの方々が、患者さんを元気にしたいという一心で、チーム一丸となって働いている姿がとても輝いて見えたからです。

私はここで多くの事を学び、共に働きたいと思いました。これから他のスタッフの方々のように、患者さんに熱い思いをもった医療人になれるよう精進したいと思っています。

高知に引っ越して早くも1カ月半が経ち、自転車で行ける範囲だけですが、やっと病院のまわりの地理を把握できはじめたこの頃です。

キラリと光る看護

精神科
地域スペシャ
ナース医療法人近森会
看護部長
梶原 和歌

援護寮「まち」が開設されて6年になります。精神病院の雰囲気をはき離れたもう一つの社会復帰病棟にはしない、手っ取り早いアパート変わりにもしない。なんのために入所するのか、それぞれの方が目的を持って契約されるその目的意識にきっちり添って、専門的な援助や介入をしようと看護職やソーシャルワーカーがチームを組んでスタートしました。

看護職はどんなに輝いているのでしょうか。まず、仕事がおもしろいです。やりがいがあります。と笑顔で明確に言いきれる事に驚きました。たとえば就労訓練という点では福祉就労(作業所や授産施設)の施設もまだまだ不足し一般就労となるとこれまで2~3人しか成功していない現実があります。面接や職場で病気のことを伝えるか伝えないか、本人の希望や選択と現実のずれなど生活しづらい自分と病気に向き合っている利用者に伴走し、その人が体験を積んでいくことで自分を見、自分自身を受け入れていく作業に関わるわけだからものすごい仕事を引き受けていることになります。

寮生活の中で人生に立ち向かうエネルギーを獲得できるような関わりと

私の禁煙奮闘記



近森病院第二分院 精神科

私は子どものころ、大きくなったら雰囲気の良いバーできれいな色のお酒を飲むかっこいい女の人になるんだとよく夢見ていました。ところが大人になってお酒の練習を何度しても飲めません。そこで、興味半分でタバコを吸ってみたところ、全然咳き込まない!以来タバコを吸うようになり、いつかやめられるものと樂觀視していました。

医師として仕事を始め、ようやく自分の健康を省みるようになり禁煙にとりくむことにしました。まずはニコチンが含まれたガムを試してみました。しかし「こんな苦い思いをするなら、吸った方がましだ」とすぐに喫煙を再開しました。次に自分へのごほうび作戦として、クリスマスまでの禁煙を考えました。しかし先の豪華なごほうびより目先の楽に流され、すぐに断念しました。その後何度も禁煙方法を試してみまし

たが、どれも続きませんでした。

そんな2年前の元旦。新聞の占いで「禁煙には好日」と書かれてありました。そこで「今年できるだけ長く禁煙記録を作ろう!」と思い立ち、以降何とか踏ん張って、2年半経った現在も禁煙記録が続いています。

このことは、大人になって自分をそうほめる機会のない私にとって大きな自信となっています。自己評価を上げたい方はぜひ禁煙して、大人になっても「やればできるんだ」を実感しましょう!禁煙したい方にアドバイスするとすれば、一回の禁煙で成功しようと思わないことを一番に上げたいと思います。

現在、私は次の目標として便秘しない体作りを挙げています。いつか晴れてこの成果を報告できることを私自身が一番心待ちにしています。

わたなべ まりこ

時に看護職は低栄養状態、歩行不能、糖尿病などの身体面での健康管理に注意を払っています。また精神科の臨床体験から病気の特徴、病状の悪化傾向などを早期にキャッチし、利用者や他職種のスタッフに理解しやすい言葉で伝えるなどトータルにアセスメントすることができるのが看護の強みのようです。また、ひとり一人の利用者に深い思い入れがあるからこそ目標達成半ばで退所を言わざるを得ない状況

や利用者にも遭遇し病理と社会の常識の狭間で苦しむこともあるようです。

ただでさえ生き難い今の時代、障害を負って厳しい状況におかれた人たちと共に歩んで、「どんな状況でも地域で生きていこうと思えばできるということを利用者といっしょに実感している」というこの強いメッセージにとっても心を動かされ「精神科地域スペシャリナース」だと感じました。

かじはら わか

平成17年度 近森会 医療安全委員会 院内安全教育予定一覧

	第2月曜	テーマ	講師	第4月曜	テーマ	講師
5月				5月23日	PPNによる皮膚障害 A-Vインパルスの使用・運用方法	赤松形成外科部長 小林メディカル
6月	6月13日	多発する過誤 (ビデオ+ミニレクチャー)	山崎医療安全委員長	6月27日	腓骨神経麻痺の予防	西井整形外科科長 小松理学療法士
7月	7月11日	責任は誰に (ビデオ+ミニレクチャー)	山崎医療安全委員長	7月25日	酸素療法 インスピロンの正しい知識	乾クオリティマネジャー 小林メディカル
8月	8月15日	沈黙する医師たち (ビデオ+ミニレクチャー)	山崎医療安全委員長	8月29日	転倒予防	国澤理学療法科科長補佐
9月	9月12日	安全管理の新たな試み (ビデオ+ミニレクチャー)	山崎医療安全委員長	9月26日	安全な人工呼吸器の取り扱い方	下西 ME 室主任
10月				10月24日	医療安全教育 中間評価	山崎・公文・乾
上半期受講者全員へのアンケート調査						
11月	11月14日	薬剤師から見た医療の安全性	沖本薬局長	11月28日	尿道膀胱留置カテーテルの安全管理	沖 CCU 看護師長
12月	12月12日	輸液の取り扱いに関する注意点	公文 ICU 主任	12月26日	安全な経管栄養を実施するために ヒューマンファクターから見た 医療事故の予防	宮澤栄養科科長 山崎医療安全委員長
1月				1月23日	患者のクレームについて	野村医療相談部長
2月	2月13日	検査室から見た医療安全	今村検査技師長	2月27日	反省ならびに次年度計画案の提示	山崎・公文・乾
3月	3月13日	医療安全から見た与薬業務	セーフティナース	3月27日		
下半期受講者全員へのアンケート調査						

* 毎月第2・4月曜日の17時30分から管理棟5階会議室で実施予定 / * テーマはあくまでも現時点では仮称ですが大きく変更されることはない

気持ちを受け入れられるよう片岡 真知子

新館 4 階西病棟看護師長

最近少し師長と呼ばれる事に慣れてきました。師長になって何をすべきか、また何ができるかはまだ良くわかりませんが、少しずつ探していこうと思っています。主任時代にある師長さんに出会い、深い意味でのやさしさを学びました。まずは、人の気持ちが受け入れられる人間になれるように努力していくつもりです。よろしくをお願いします。

生きた看護を目指し松岡 正美

新館 3 階西病棟看護師長

今回師長の辞令を頂き、今までの師長さん達の良い所を見習い少しでも近づける様頑張りたいと思います。まずは、スタッフが、働きやすい環境に整え、自分の意見をはっきり言える活発な病棟作りを目指します。そして患者様と正面から向き合い、目線を合わせ、共に一つの目標に向かっていく「生きた看護」が提供できるよう努力していきたいと思っています。

チームワークのよい病棟に前田 由紀

リハ病院 2 階西病棟主任心得

4 月 1 日より主任心得としての一年がスタートしました。まだ 1 カ月も経たないうちから気持ちばかりが先走り、ややパンク状態ですが、仲間と共にチームワークのよい病棟になるよう努力したいと思っています。まだまだ未熟で、ちょっと頑固な一面のある私ですが、一生けんめ



迷惑をかけずに小松 祥子

リハ病院 3 階東病棟主任心得

分からないことが多く、不安だけが先立っています。迷惑かけることばかりだと思いますが、患者さまや御家族の方々、そしてスタッフが、リハ 3 東に来てよかったと思えるような病棟にしていけるように頑張りたいと思います。

学んだことを活かす菱田 和芳

リハ病院 3 階西病棟主任心得

学校を卒業し新人 Ns の時代からリハビリテーション病院で勤務し、わからないことや頼りない事も、また皆さんにご迷惑をかけることも多々あると思いますが、「自分や家族が患者さま本人だったら……」という思いを忘れずに、先輩 Ns のみなさんから学んだことを活かし、病棟のスタッフに伝えていけるように頑張りたいと思っています。

熱 応 援



他職種との連携も

影山 美佳 新館 6 階東病棟看護師長

このたび、看護師長の辞令をいただき身の引き締まる思いです。日々変化する医療界の中で、アンテナを高く張り情報を得、また、他職種との連携も密にして、今まで以上に患者さまが安心して入院生活を送っていただけるような、環境づくりを行っていききたいと思います。同時に、スタッフが働きやすい環境も考えていききたいと思います。

個人のスキルアップ萩原 博

第二分院 3 階病棟主任心得

良いケアが提供できるような患者様の気持ちを大切にすると共に、ケアにあたるスタッフの気持ちにも目を向け、各スタッフが何でも言えて力を発揮できるようにサポートできたらと考えています。自分らしさを忘れずに中島看護師長の指導のもと、個人のスキルアップに努め、頑張っていきたいと思っています。



より良い医療と看護を

畠中 千穂 新館 6 階西病棟主任心得

主任というポジションをどう考え行動していけばいいのか、まだまだ未熟ではありますが、病院の理念・目標を念頭に置き患者さま中心にスタッフと意見を交わし、高橋先生をはじめ脳外科の先生方や、看護長と話し合いチームを纏めより良い医療と看護を提供出来るよう、尾知看護長と共にスタッフのボトムワークに務めていききたいと思っています。



より質の高い看護を西岡 成巳

新館 5 階東病棟看護師長

就職して 10 数年、医療・看護界の変化はめざましく、近森会でも患者中心の医療・看護の提供、専門的知識・技術の向上、安全なケアへの取り組みがなされてきました。今後その現象を管理的な視点からとらえ、スタッフの育成やより質の高い看護が実践できるよう頑張りたいと思います。不安と戸惑いはありますが、周りの方々に支えて頂きながら努力したい

前向きな姿勢を尾知 美穂

新館 6 階西病棟看護師長

四月より看護師長となり、今は「やるしかない」という気持ちで日々勤務しています。常に前向きな姿勢を忘れずに、新鮮な気持ちを持ち続けていきたいと思っています。患者さまに「この病棟に入院してよかった」、「この病院に来てよかった」と思って頂ける対応ができるよう努力して行きたいと思っています。

サポート役として尾崎 博世

第二分院 4 階病棟主任心得

最近患者様中心の看護を行っていくことにも、より分化した専門性が求められる時代になっています。各スタッフがそれぞれの専門性を発揮して生き生きと看護ができるようにサポートしていければと思っています。まだ右も左も分からない状態ですがよろしくをお願いします。

自己啓発に励み上総 満高

第二分院 5 階病棟主任心得

主任となってまだ間がないので、今ひとつ実感が湧いて来ないし、「主任」と呼ばれても違和感があるが、与えられた役割や業務に対しては全力投球で頑張っていきたい。また、周囲からも信頼を得られるよう自己啓発に励み、良い意味で周囲から「主任になって変わったね」と言われるようになりたい。

アンテナも働かせ

山本 靖代 ER 主任心得

4 月から主任心得の辞令をいただきました。わからないことも多く、自信もなく、御迷惑をお掛けすると思いますが、ご指導のほどよろしくをお願いします。主任の役割は何かということをよく考え、業務のシステム化に努め、みんなが働きやすい環境に調整していけたらと思います。そのためにも自分の中の色々なアンテナをいつも働かせていきたいと思っています。

人物ルポ 222 ●人工透析室看護師長／西村剛さん

趣味が仕事で、仕事が全て、 のコンピュータ専門家



和田道子

青木操

和田道子看護師長が出勤時間の1時間以上早く出てきて、新館7階の透析室を訪ね、西村剛看護師長にコンピュータの手ほどきを受けるといふ。和田さんによると、「企画情報室が病院全体のコンピュータシステムを考えてくれるところなら、西村さんは看護部という部署の特性を活かしてシステムを組んでくれる人。だから看護部は看護部同士で、ということになる」のだそうだ。

青木操主任は、「なんでこういうシステムになるかというコンピュータの基礎の部分から解る人だから、とくにデータ処理などすごく頼りになる」といい、周りのほかのスタッフも二言めには「西村さんは工業高校出身だから機械に強い」と、何だか得意げにアピールしてくれた。看護部長室でも各種のデータ報告がいつもきちんとなされるから透析室の数字はとくに安心だとい

われた。

で、これも透析室で聞いた話になるが、西村さんはコンピュータに限らず、何か解らないことがあると、必死で勉強してそれを極めようとする真面目さがあるのだそうで、この辺り、ご本人によると「妻には真面目過ぎるからしんどい」のだと諭

されているらしい。

そもそも工業高校で土木を勉強した若者がなに故に看護職に行き着いたのか。西村看護師長を語る際のキーワードは取りあえず「わかりやすい」ということになる。つまり、高知工業高校卒業後、日本でベスト3に入る規模の建設会社に入社し現場管理を任されたところ、管理の仕事は夕方や休日にもすることも多いし休みは不定期。その割に給料も高くなかった。

それに比べて看護師をされていた兄上は待遇もいいし給料も高い。これなら「兄といっしょの仕事の方がいい」と2年勤めた大企業を辞めて看護学校に入り直したのである。「この動機って、わかりやすいでしょ！」というこ



とになる。

透析が専門になったのは看護学校の恩師に「工業高校出身だから機械に強いだろうと透析の医院を紹介された」のがきっかけだった。

いまから20年前、工業高校を進学先に選んだのは当時仲の良かった先輩が入学し勧めてくれたのがきっかけで、「まあ工業もおもしろいだろう」とすぐ決まった。いつの頃も「単純でわかりやすいですよ」と、あまり悩まなくて済む神経の図太さが、じつは密かな自慢でもあるらしい。

釣りもするし、若い頃にはサッカーも好きだったが、最近のいちばんの楽しみは6歳と4歳になる子どもと過ごすこと。「親バカですから」を連発する子育ての旬をいま味わっている。家では妻の母上とも暮らすマスオさん状態だが、あまりお義母さんに気を遣うこともなく意外と悠然と居るらしい。

妻が同じく看護師のため子どもの

迎えや妻の夜勤のときの子どもの面倒など、窮屈に思えばしんどくなることでも、案外気楽に楽しいノルマとして軽やかにこなしている。

看護師長に就任したばかりの頃、張り切りすぎて透析室のスタッフと行き違いが起り、当時苦勞といえればそれが苦勞だったかも知れないが、淡々とニコニコとやり過ごしてきた。つまり、やっぱり図太いのだ。

肩に力を入れすぎず、適当なガス抜きを入れつつ、「頼まれたらイヤとは言えないからアップアップしつつも今後も頑張ります」という生活がこれからもきっと続くのだろう。

リレーエッセイ

キャピキャピ、ピチピチシタ若い頃と今とでは、興味のあることや関心のあるものが、随分変わってきたなあ最近よく思います。好奇心旺盛な若い頃は県外へ買い物に出かけたり、人込みの多い遊園地やイベント先等、体力にまかせて、休みとなればまず家に居ることはありませんでした。

でも今では逆で、情緒豊かな自然を感じられる溪谷や山道へ出掛けることが多くなりました(家にジッとしていないのは、変わってないなあ)。毎日時間に追われ、休みに休みに人込みへはなかなか足が向かず、それよりも自然! おいしい空気や目にやさし

紫陽花の 群生を発見

リハ病院理学療法科
澤本 静



い緑、きれいな景色、季節のにおいや色を満喫できる山へ癒されに行くのです。不思議に心地よく、時間も忘れ、気分も良いです。子どもも自然に触られるので、一石二鳥。

そこで一つ、梅雨時期におすすめしたいスポットがあります。天狗高原の

帰りに見つけた、「長沢の滝」の近くにある紫陽花です。きれいに整備された川沿いに、辺り一面にたくさん咲いていました。道は少し悪いのですが、足を運んでみて下さい。

そんな風に休みを過ごしていると、いつの間にか疲れたときや気分をリフレッシュしたいとき、自然と自然(笑)を求め、車を走らせています。ちょっとした私のココロのビタミン剤になっています。そこからもらったパワーを今度は笑顔と元気に変えて、私が患者さんのビタミン剤に少しでもなれば……と、思っています。次の休みはどこにいこうかな。

シリーズ●クリニック探訪 6

植田医院

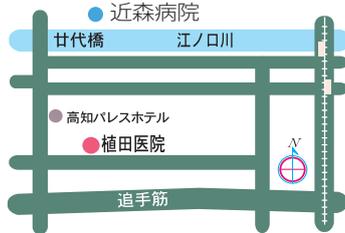
tel. 088-823-8814
fax.088-823-8676<http://www.kuzira-net/uetain/>

院長・植田一穂（いっすい）
S31年6月13日、高知市生まれ
趣味は釣り、写真、化石の採集



追手筋から廿代橋通りを北へ一
目の通りを東に進んですぐにある

診療科目 ● 内科、呼吸器科、アレルギー科、リウマチ科、循環器科、消化器科、神経内科、心療内科、小児科
住 所 ● 高知市廿代町1-8
診療時間 ● 午前 9:30～13:00
午後 14:00～17:30
土曜は15時まで
休診日 ● 日曜、祝日
入院病床 ● 19床



昭和31年1月、街のド真ん中の当地に父親が開業し、平成4年7月に私が跡を継いでからこの7月で13年になりました。近森病院には平成ではなく昭和の時代のことにはなりますが、1年3カ月ほど在職させていただきました。

内科では糖尿病、喘息、腎、アレルギー、

膠原病を専門に診療しています。

在宅医療では往診、訪問診療の他、在宅酸素療法、腹膜透析在宅ターミナルケアにも対処しております。

どんなときにも「患者さんにとってどうなんだ」と考える医療を心がけたいと思っています。

図書室便り

(4月受入分)

- ・医の原点 第1～5集 / 加我君孝 (他編集)
- ・Emergency Radiology - 救急の画像診断とIVR - / 救急放射線研究会 (他編集)
- ・脊椎・脊髄のMRI / 前原忠行
- ・血管エコーのすべて 頭部から末梢まで / 増山理 (他著)
- ・所見からせまる脳MRI 系統鑑別診断 / 土屋一洋 (他著)
- ・これでわかる拡散MRI / 青木茂樹 (他著)
- ・IVR マニュアル / 打田日出夫 (他監修)
- ・MDCTの実践 - 臓器別の撮像法から3D Imagingまで - / 吉田祥二 (監修)
- ・画像鑑別診断クイックリファレンス4 泌尿器・生殖器・後腹膜・副腎 / 吉田祥二 (他編集)
- ・脳神経外科大系5 脳神経外科救急 / 山浦晶 (総編集)
- ・大腸肛門疾患 専門医が悩む症例 / 澤田俊夫 (監修)
- ・改訂 医療現場の滅菌 / 小林寛伊 (編集)
- ・改訂 消毒と滅菌のガイドライン / 社会保険研究所調査室 (編集)
- ・今日の治療薬 解説と便覧 2005 / 水島裕
- ・医療薬 日本医薬品集 2005年版 / (財)日本医薬情報センター
- ・錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報 改訂4版 / 西岡豊 (編集)
- ・食事で治す心の病 心・脳・栄養 - 新しい医学の潮流 / 大沢博
- ・笑いと免疫力 - 心とからだの不思議な関係 / 吉野禎一
- ・第35回 日本看護学会論文集 (看護管理) / 日本看護協会 (編集)
- 《別冊・増刊号》
- ・別冊 医学のあゆみ Parkinson病 - 最新動向 / 水野美邦 (編集)
- ・別冊 医学のあゆみ アレルギー疾患研究の最前線 / 斎藤博久
- ・臨床放射線 別冊 1枚の画像から - 厳選100例 - / 大場寛
- ・別冊 整形外科 No47. 骨・軟骨移植 - 最近の知見 / 岩本幸英 (編集)
- ・月刊 Medical Technology 別冊 超音波エキスパート 3 心機能評価の考え方と進め方 / 藤田勝治

4月の診療数

近森会 外来患者数	18,580人
近森会新入院患者数	842人
近森会 退院患者数	853人
地域医療支援病院紹介率	84.18%
近森病院平均在院日数	14.52日
近森会 平均在院日数	21.55日
近森病院救急車搬入件数	406件
うち入院件数	209件
手術件数	223件
うち全身麻酔件数	112件

企画情報室

編集室通信

前月号より、「ひろっぱ」がカラー印刷となり、読者の皆様から「見やすくなった」「今までより目に入ってくるインパクトが違う」という嬉しい声を数々耳にしました。

色を入れることで、いままで伝えきれなかった様々な表情や色調が表現出来るようになったのではと思います。私としては気にしている目じりのシワまでも表現されそうで、怖いんですが……。これからも今まで以上に、皆様の視覚に働きかけ見応え・読み応えのある「ひろっぱ」を作っていきたいと思っています。(由似)